



戦後群馬を支えた相互扶助のちから

— 同胞援護会と上毛かるたの誕生 —

戦後、県民が厳しい状況に直面する中で、群馬県では県民自身の力によって生活再建と地域福祉を進めようとする取り組みが活発に展開されました。同胞援護会群馬県支部は、引揚者援護や生活困窮者支援のほか、募金活動としての「はらから飴」など多様な事業を通して県民の連帯を支えました。こうした事業の一環として上毛かるたは誕生しました。

この小コーナーでは、これらの活動を示す事業一覧、啓発ポスター、かるた作成の趣旨文などを通じて、当時の人びとが「互いに助け合い、立ち上がる力」をどのように形にしていっていったのかをご紹介します。

19 [ポスター] 引揚援護徹底運動

昭和26(1951)年以前

戦後、多数の引揚者が帰還する中で進められた「引揚援護徹底運動」の啓発ポスターです。

利根川や赤城山、榛名山など群馬の象徴的な山河を背景に描き、県民一体となった支援の必要性を訴えています。同胞援護会が推進した引揚者支援の広報資料として貴重です。

西片恭子家文書『[ポスター] 引揚援護徹底運動』(P01506 160)